

『現代韓国朝鮮研究』の創刊に際して

現代韓国朝鮮学会会長

小此木 政夫

昨年11月18日、現代韓国朝鮮学会創立大会が慶應義塾大学で開催された時のことがいまだに忘れられません。一握りの者が発起人になり、その輪を広げながら、しかし準備不足のまま開かれた大会であったにもかかわらず、全国各地から100名以上の研究者、実務家、ジャーナリスト、大学院生が集まり、熱心に議論を展開しました。その熱気がそのまま懇親会に引き継がれるのを見て、大げさでなく「時代の要請」を感じないわけにはまいりませんでした。

事実、昨年は20世紀の最後の年でした。第2次世界大戦の終結、すなわち日本の朝鮮統治の終焉から55年が経過しました。また、さまざまな評価があるにせよ、歴史上初めて南北首脳会談が開催されるという画期的な年でもありました。この間に、革命、戦争、クーデタの錯綜する混乱の時代を経て、韓国は経済発展と民主化を達成し、社会主義諸国とも修交しました。他方、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）は特異な一元的政治体制の下で経済的な苦難と国際的な難局に直面しています。

歴史の歩みには我々の意識を超えるものがあります。日本と朝鮮半島を包含する東アジアも、現在、地球的な規模で進展するグローバリゼーションを免れることはできません。しかし、その反面、政治、経済、社会、その他の分野での相互浸透が進展すればするほど、それだけ地域研究の意義が高まることでしょう。そのような学問的成果を武器に、また民主主義、市場経済、安全保障体制という共通の基盤の上に、我々は「優越」でも「連帯」でもなく、新しい共同体意識を醸成していかなければなりません。

学会の創立と同じく、学会誌『現代韓国朝鮮研究』の創刊は我々が新しい責務を負ったことを意味しております。また、学会が学問探究の場である以上、その責務は第一義的に高い研究水準を維持することによって果たされなければなりません。そして、そのことを立証するのが、ほかでもなく研究大会での発表や討論であり、『現代韓国朝鮮研究』に掲載される諸論文であります。学会会則に見られるように、我々は「現代韓国朝鮮の政治・経済・社会・国際関係等に関する社会科学のおよび歴史研究を促進し、内外の研究者相互の交流を図る」ことを目的として参集したのです。

学会誌創刊号は「現代韓国朝鮮学の現状と課題」と題する特集を中心に、2独立論文、1研究ノートを加えて構成されております。学会誌の創刊という難事業のために、伊豆見元委員長と編集委員諸氏が多大の努力を払われたことに深く感謝いたします。それなしに、学会誌はスタートできませんでした。また、学会誌の刊行を引き受けてくれた新書館に対しても、お礼を申し上げます。